

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名	西淀川区
学 校 名	大阪市立大和田小学校
学校長名	阪井 園子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大和田小学校では、第6学年 61名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、56 p で大阪市と比べて9 p、全国平均と比べて11 p 下回る結果となった。無回答率は、2.8 p で大阪市と比べて0 p、全国平均と比べて0.5 p 上回った。
算数の平均正答率は、48 p で大阪市、全国平均ともに10 p 下回る結果となった。無回答率は、2.9 p で大阪市と比べて0.4 p、全国平均と比べて0.7 p 少なかった。
理科の平均正答率は、48 p で大阪市と比べて7 p、全国平均と比べて9 p 下回る結果となった。無回答率は、1.5 p で大阪市と比べて1.5 p、全国平均と比べて1.3 p 少なかった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

すべての教科において無回答率が大阪市、全国平均を上回っていることから、最後まで粘り強く問題に取り組む児童の姿が伺える。

〔国語〕

学習指導要領の内容別では、「我が国の言語文化に関する事項」については、大阪市、全国平均を上回ったが、他はすべて大阪市、全国平均を下回った。特に「話すこと・聞くこと」は、全国平均より14 p 下回った。資料を活用して、自分の考えが伝わるように工夫したり、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりする力をつけていくことが今後の課題である。

〔算数〕

すべての領域において、大阪市、全国平均を下回った。特に「数と計算」は全国平均より11 p 下回った。小数や分数の大きさを捉え、数直線上に表したり、計算したりする力をつけていくことが今後の課題である。

〔理科〕

すべての領域において、大阪市、全国平均を下回った。特に「『生命』を柱とする領域」は全国平均より14 p 下回った。予想や仮説をもとに、解決方法を発想し、表現する力をつけていくことが今後の課題である。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して最も肯定的に回答する割合が、大阪市、全国平均を上回った。結果から、友だちや教職員と良好な人間関係を築き、学習や学校生活に主体的に取り組む姿勢が育っていることがわかる。また学習面においては「学級の友だちとの間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか」の質問に対して肯定的に回答する割合は、大阪市、全国平均を上回っている。これまでも算数科を中心に話し合い活動を取り入れてきたことにより、互いに学び合う意識が高まってきている。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的に回答する割合が、大阪市、全国平均を大きく下回った。「やればできる」「成長している」と達成感を味わう機会を増やしていくことが今後の課題である。

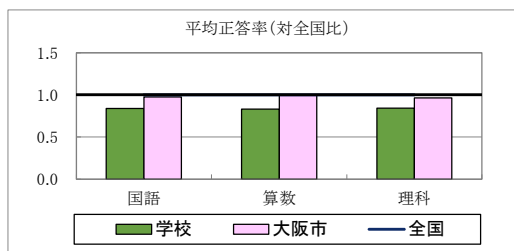
今後の取組(アクションプラン)

- 昨年度に引き続き今年度も研究教科を算数科に設定し、「できた！楽しい！が実感できる算数科の授業づくり」をテーマに学校全体で取り組んでいる。「数と計算」領域の力をのばすため、「大和田ぐんぐんタイム」を設定し、基礎基本の定着を目指している。また授業では対話的な学習を重視し、考えを伝えあい、学び合える授業づくりの研究を進めている。
- I C T機器を効果的に活用し、個に応じた学習や協働的な学びにつなげる。

【 全体の概要 】

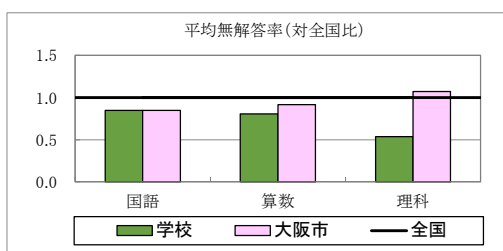
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	56	48	48
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

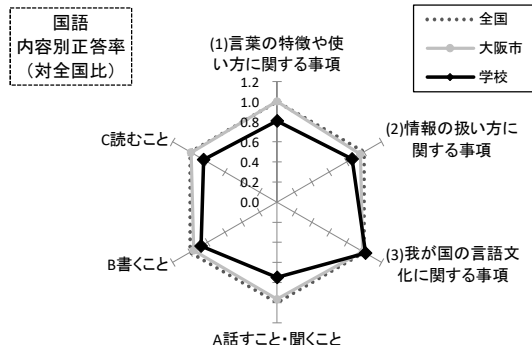
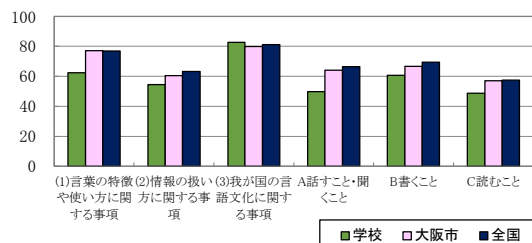
	国語	算数	理科
学校	2.8	2.9	1.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	62.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	54.4	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	82.5	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	49.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	60.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	48.7	56.9	57.5

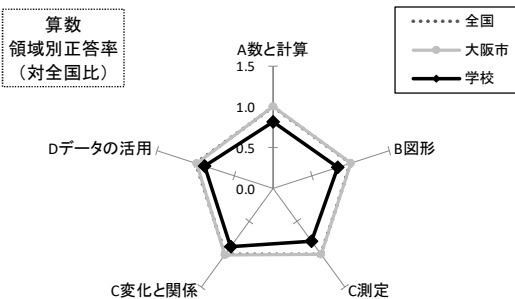
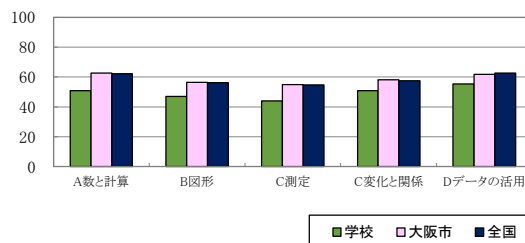
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



【 算 数 】

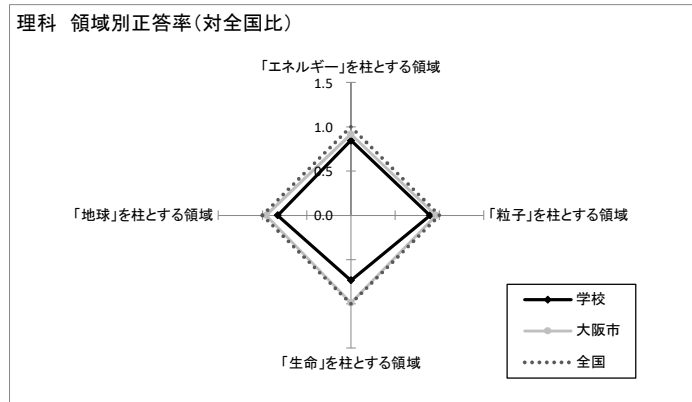
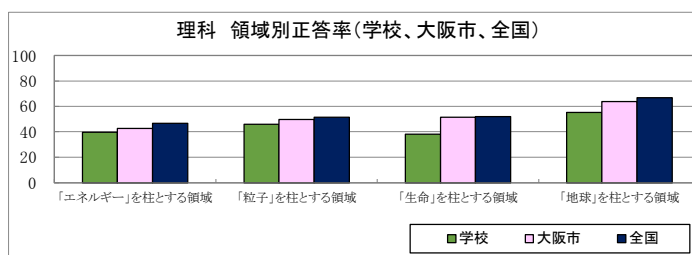
学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	50.9	62.7	62.3
B 図形	4	46.9	56.4	56.2
C 測定	2	43.9	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.9	58.2	57.5
D データの活用	5	55.4	61.9	62.6

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.5	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	45.9	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	38.2	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	55.3	63.8	66.7



児童質問より

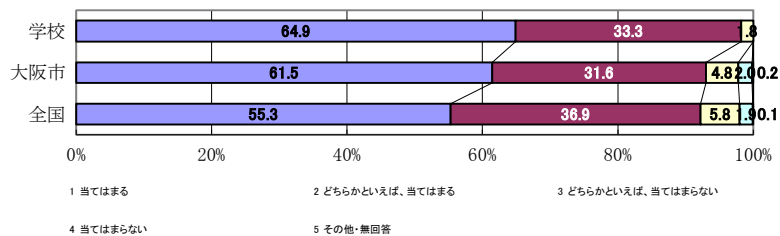
質問番号

質問事項

6

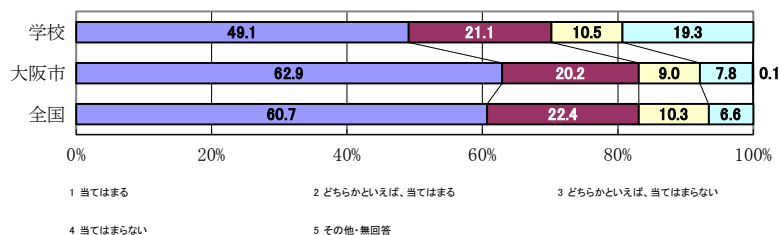
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



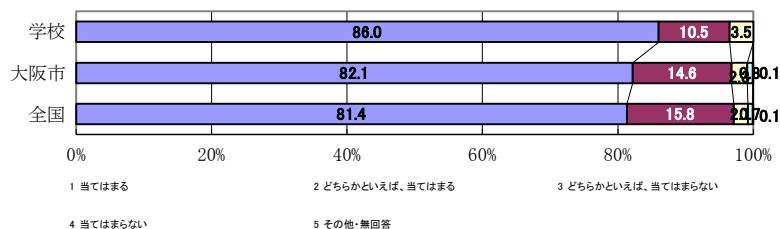
7

将来の夢や目標を持っていますか



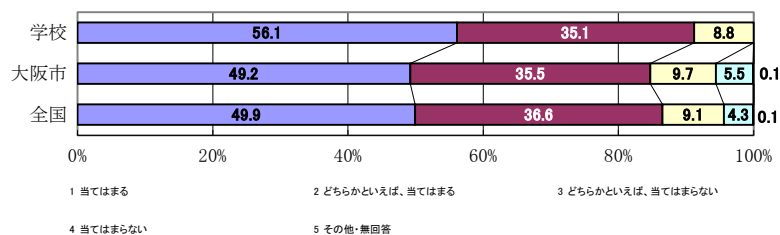
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



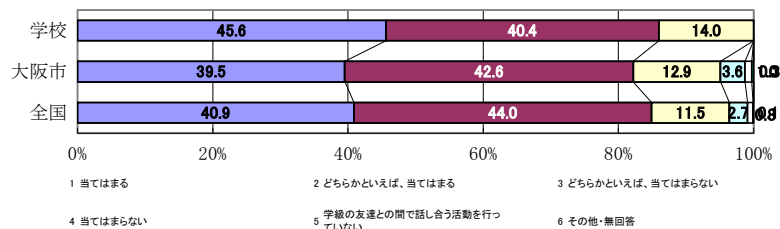
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

質問番号

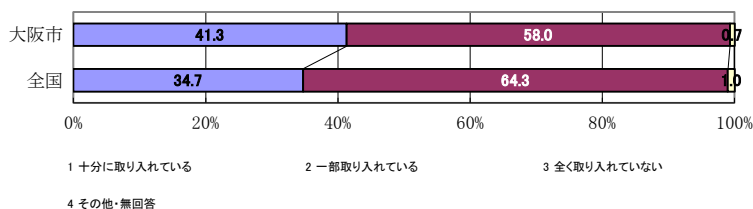
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

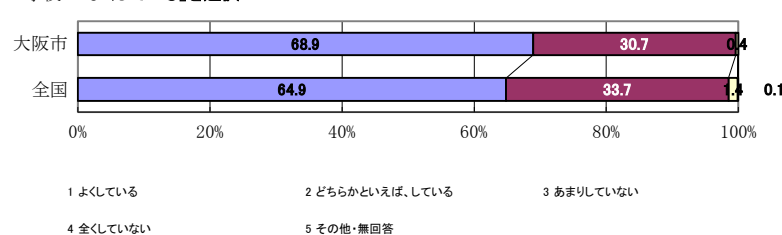
学校 「十分に取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

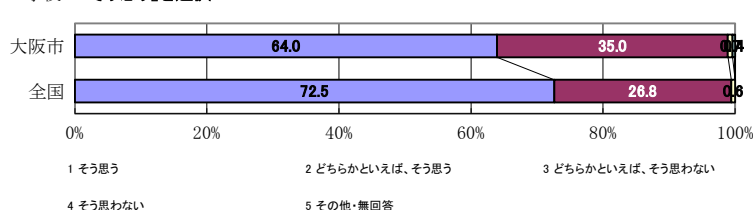
学校 「よくしている」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

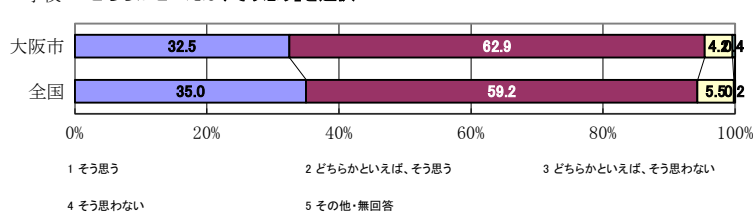
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



60

調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

